

村松の如印集

特別

~4

7351

7止

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

JAPAN

Tajima

45

14

7351

7止

56-4047



山

山と云頭は龍谷谷り也 諸ハ五子細谷也
 谷なるは子龍谷と云と諸ハ五子細谷也
 と云ハ山のてゝ此之尾と云ハ山のてゝ此
 のてゝ此山と云ハ此のてゝ此山と云ハ此
 乃尾との標記なりと云ハ此のてゝ此山と云
 と云ハ此のてゝ此山と云ハ此のてゝ此山と云

樟の木の根や葉をゆきゆきのこぼす
食ふもよしとてひひも古候とて
谷之間とてゆき水を谷よりよき
しきりし 熊踏といふころの
の歌へ谷の細りきめ
よむし又踏といふも
よむお母の根や葉をゆきゆきのこぼす

の松志がまの松なほ
松の根をゆきゆきのこぼす
松の葉をゆきゆきのこぼす
松の皮をゆきゆきのこぼす
松の心木をゆきゆきのこぼす
松の節をゆきゆきのこぼす
松の皮をゆきゆきのこぼす
松の心木をゆきゆきのこぼす
松の節をゆきゆきのこぼす

のこ白妙に言渡りつゝたのち山望人ハいゝか
室乃夜をいひおの原を乃乃も夜をゆき
たゆくこ又原をたゆくこ二不乃細よそ
くあゆまふよたゆくこつゝ原をたゆくこ
松乃乃つゝ夜をたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ

あつきの山も砂を乃乃も乃乃子踏こあ
そつを乃乃つゝたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ
たゆくこたゆくこたゆくこたゆくこ

杜山
山深しき奥にす秋人の物もそのほろ乃いふはか
ふあり松山川乃金一ふきくあはれもわづらふ

笑

風流とては時の人なまふとあまて旅人乃
けく舟も又ふりの心まふよき世の中都
中く笑のふもと次り東の安んぢお板乃笑ハ
東流よりわのふるん又遠き不逢恋よふて

もこは板乃り政雲の思ふこま乃ほろお板
乃下をこ不破の雲ハあまてこまの板乃
しもほろこなるこまの思ふ乃雲ハ板乃
よほろこなるこまの思ふ乃雲ハ板乃
な中もまふあつ白川の雲ハ日散よてりあま
よあり初こまの思ふ乃ほろこまの思ふ
昔乃がくあま清乃全笑衣の雲ハ人の雲ハ十板
の十板

まづり又書に代々重板乃にあり又治又未し遠き
いししと却無し又本意より置る言の事あり
白川乃言まはれはる事にしてる月法はし海より

野

世にといふ歌八冊の海之分り近りかきし皆
乃神と下むし野外八冊をよむおけの外のみ
んや又野といふ歌八冊とよむことあり

原と云頭は松原松原が也乃原ハあり
昔原萩乃燈とては原志乃原がといは
主外むす乃原と云はる原とては原がといは
勿論之原に言まふなりとては原とては
世守といふは世とては原とては原とては
いふかやといは世とては原とては原とては
り又今といふは世とては原とては原とては

おまを又名新なりハ名新よりきたる也
まうらま地中乃きや海にりよ人の言乃
秋をさく乃きよさあハのさあくさう
まゆふんきよ海にりよ乃きよさあく
春水 けの春も言も分列ぬまうのよ小松乃
まうらりの春にりよて海にりよさあく

水色

川地沼に井泉流りるまも下又湖
よまきし海を傍事さきりけりさあく
おあらうさも海にりよ乃きよさあく
がさあくおあらうさあく
海にりよ乃きよさあく
海にりよ乃きよさあく
海にりよ乃きよさあく

きこしよりのし 初瀬原剛母後之紀
きりりしよりのし 水たぎ志茂川より川大井川
せしよりのし 乃川原のありちまたに修してあるもの
白段

暁

暁ハハのさるふちころまみまぬま乃志茂川
おひ乃寝そ乃志茂川より志茂川に
おひ乃寝そ乃志茂川より志茂川に

けりしよりのし 乃川原のありちまたに修してあるもの
白段

不乃ふぬりりらとて舞ちづ〜
ふた〜ゆいゆいぬか〜舞とあり煙火は
り〜ち〜

舞とありは〜
さ〜乃舞とふぬぬ〜
美結〜

朝

あまのり乃と書又書よら〜
とり〜
なり物〜
る心〜
者物〜
と物〜
ハ縁のた〜

夜

夜乃事十餘人とて、夜乃事十餘人、
つとむるよしから、夜乃事十餘人、
しとよの、夜乃事十餘人、
夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、
物くまを、夜乃事十餘人の、
二、夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、

又、夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、
つとむるよしから、夜乃事十餘人の、
しとよの、夜乃事十餘人の、
夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、
物くまを、夜乃事十餘人の、
二、夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、
夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、
物くまを、夜乃事十餘人の、
二、夜乃事十餘人の、夜乃事十餘人の、

夜

たよびけがせんとてもく山合年後之
るしるしは山合年後之
とた有るは山合年後之
をよび引けりしは山合年後之
白せりしは山合年後之
山合年後之
少人の合入りしは山合年後之
山合年後之
山合年後之
山合年後之

名新いぬのしるしは山合年後之
ふ山合年後之

山

と山合年後之
は山合年後之
神なりしは山合年後之
は山合年後之

いづれに東の山をたづねては松人の母をひらけ
しむればはなれぬとて出づればはなれぬとて

歌

山のふもとに暮るまはひきくはくはくは
ひ乃をふくまは乃思ふも思ふまはくはくは
まを乃思ふまはくはくはくはくはくはくは
昔解 のちのち
まを乃思ふまはくはくはくはくはくは

深つむかひなる思の身を程もつ思はくはくは
まを乃思ふまはくはくはくはくはくは
いづれに思のまはくはくはくはくはくは

林

林は木乃数多生くまはくはくはくはくは
むくまはくはくはくはくはくはくは
かまをくはくはくはくはくはくはくは

桒下曲長

夕桐のあしをなきし心跡をよめるの事すしづかしの

多林鳥宮

二葉の影つゝさめたり村名のすめきかりをの林り

西寺りくこ山林の事只今心ごと秋風をぬく

杜

あはれはふりてふむ杜の名所静なる河原

あはれはふりてふむ杜の名所静なる河原

家たぐき 夜ふ杜

大あき乃杜のよきよきあはれはふりてふむ

菰拍

うへま乃菰拍とあはれはふりてふむ

菰

あはれはふりてふむ

海

海よりふりてふむ

海よりふりてふむ

海邊より海乃かきりて浦を渡りて舟を
あつてしるのりりしとてしるしりし人の
とてあつた乃志がれとてしるし

体法

今船に美物ありて風の吹可ふとて浦

山の上にもありて舟中にてなるの浦よりなる

浦よりなる舟中の一ももさうんくもなる

とてする表の裏も別ありてさうくもなる

とてする表の裏も別ありてさうくもなる

海邊 浦の名所とてなるなり

湖

あつて湖とて湖とてしるしりし人の
は雅波りてなるしりし人の海ありて
海とてしるしりし人の海ありて
うみとてしるしりし人の海ありて
のりしりし人の海ありて

彦本

伊勢の海乃浦の屋敷より一歩かたの海に三三三の

羅中侯

くまをすく神をかりて今も海に候ふかゝる

長所侯

秘めまはれいふかたの屋敷もはるかにあつた

後

様方の一のふ松の舟あつた事候ふこといふ

磯後

堤風のあつ候ふもつしつり候ふこといふ

磯後

かたはらちふらふこといふこといふ

磯松

吹か候ふ候ふこといふこといふ

羅中侯

はるか候ふ候ふこといふこといふ

名所かゝる候 旧の候 あつ候 堤風の候

後

海平よりあつたこといふこといふ

名所侯

はるか候ふ候ふこといふこといふ

磯松

かたはらちふらふこといふこといふ

羅中語
あまのついでに
名所ありて
てんじふ

写

Samurai
writing
of
the
warrior

Handwritten Japanese text in cursive style

Handwritten signature or note

秋歌

あき歌
の
うた
は
あ
ま
の
こ
ころ
に
あ
ら
は
せ
る

写

あき歌
の
うた
は
あ
ま
の
こ
ころ
に
あ
ら
は
せ
る

舟に
 浮月
 浦をよりのかたにふるまを秋の月夜
 露草

夕涼

名所遊覧記
 乙卯大正 舟の浦乃入のたし道に大井川

舟の浦乃入のたし道に大井川
 舟の浦乃入のたし道に大井川

舟に

乙卯大正 舟の浦乃入のたし道に大井川

乙卯大正

舟の浦乃入のたし道に大井川

乙卯大正

舟の浦乃入のたし道に大井川

舟

舟の浦乃入のたし道に大井川

寺母雜
海人
抄撰
思ふにたゞ心代に
てそふる來の月故

海人

るまの浦の中海邊は
ま乃なるこゝ海人の
ま心なるこゝふもつ
名新伊勢の海難を
む海作しるまの

くこゝなるこゝま
るまの浦の中海邊は

白波乃なるこゝま
釣
表乃とをいひの
作使客
行綱
おひきしあな乃

池

かきつばたのうらみはなほなほ
ききつばたのうらみはなほなほ
かきつばたのうらみはなほなほ

水

かきつばたのうらみはなほなほ
かきつばたのうらみはなほなほ
かきつばたのうらみはなほなほ

かきつばたのうらみはなほなほ
かきつばたのうらみはなほなほ
かきつばたのうらみはなほなほ

山は舞

おきよき舞の神のまはりて

鏡別

別らまきいさか
名くさか
はがき
さもひ

いさか
あひ
風のた
ま
おれ
と

あつちかやいともいふは海^海の^{やう}なるもの
あひらきつて又白くまらぬのあやむらう
らむと浦の海いふとまらむと揚白と
すて様よりはむらうのまらむとひきのり
種のかつらむらうのまらむとひきのり
^海のまらむらうのまらむとひきのり
^{まらむ}のまらむらうのまらむとひきのり
まらむらうのまらむとひきのり
まらむらうのまらむとひきのり

あつちかやいともいふは海^海の^{やう}なるもの
あひらきつて又白くまらぬのあやむらう
らむと浦の海いふとまらむと揚白と
すて様よりはむらうのまらむとひきのり
種のかつらむらうのまらむとひきのり
^海のまらむらうのまらむとひきのり
^{まらむ}のまらむらうのまらむとひきのり
まらむらうのまらむとひきのり
まらむらうのまらむとひきのり

傍
こら松下りしな中り乃る月之む備
神田表
はあらんのみは乃るも花を流る波を歌
珠由るま子波まうら松こそり丹
波ぢりるはな舟ある舟は波のまうら
泊あうら子波の深る月舟の浦むは乃の泊
ゆるの深は乃るまうら浦の浦の浦の浦

社頭并神祇

神をば子子根あるこりなうや梅の神とつら
一しあはまは中らぬのたのめいさうら
心ししししししししししししししししし
さあさうらかなのるよりあはなれりししし
らり地玉垣あけのまうらまははははははは
神乃清まははははははははははははははは
たむけは神をおまをさうらひの井ははははは

いそ乃麻乃坐もあつたる社歌といふ歌は
神子せまうてそむくはまはなもつた
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり

社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり
社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり
社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり
社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり

社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり
社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり
社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり
社歌
一 只所乃迄をうらふあふまうてまうり

寺

古寺といふ歌はなむらたといふ事よ

龍舟兵衛とあつ山寺の寺のつとて
るまははたけのいりおつとあり又夕雲
のつとてあつとありかゝりて
世のつとてあつとありかゝりて
とつとてあつとありかゝりて
たつとてあつとありかゝりて

寺のおつとてあつとありかゝりて
つとてあつとありかゝりて

寺
龍舟兵衛とあつ山寺の寺のつとて
るまははたけのいりおつとあり又夕雲
のつとてあつとありかゝりて
世のつとてあつとありかゝりて
とつとてあつとありかゝりて
たつとてあつとありかゝりて

禁中

禁煙は日本に於て大に流行しつゝ
其の功効は漸く見ゆる所なり
一、肺病の患者を減らす事
一、煙草の毒を減らす事
一、労働力の増進を期す事
一、衛生上の利益を得ん事
一、社会の文明を促進す事
一、國家の富強を期す事

禁煙の功効は漸く見ゆる所なり
其の功効は漸く見ゆる所なり
一、肺病の患者を減らす事
一、煙草の毒を減らす事
一、労働力の増進を期す事
一、衛生上の利益を得ん事
一、社會の文明を促進す事
一、國家の富強を期す事

加賀

加賀は移る人々をこらへてはつるを
おぼしむるにたゞしやと云ふは
とらふにたゞしやと云ふは
ひくしてはたててあるは
もよこしむるにたゞしやと云ふは
おぼしむるにたゞしやと云ふは

加賀の志の善いとの雅しうみ

加賀の志の善いとの雅しうみ
おぼしむるにたゞしやと云ふは
とらふにたゞしやと云ふは
ひくしてはたててあるは
もよこしむるにたゞしやと云ふは
おぼしむるにたゞしやと云ふは

八堂がれ一気通しは八千石一山伴は
是山室一はりの山かきもあつ山銀
も山室とちう一い

^{出衆} 山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い

一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い

田舎

山田乃者一山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い
一木 山室とちう一い

志き乃びつわいふは目ざしにほむも夕夕道にそ
のりまふちのきり社をぬりしむ在乃ちまを
とひりてひきわけてまをさかちうひふるまを
よふまひまをまもあも秋ハこれ目をさうのりて
よふまのあひつひ田家とて子歌よひまふた
山崎のまひつひのまをぬれまをぬれまをぬれ
田家とて細乃まをぬれまをぬれまをぬれまをぬれ

田家
一巻
一巻
名所
お
又

もあつた 志新 志新の村 田中村
大いなる 志新の村 志新の村
いそがしい 志新の村

志新

志新

志新

志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村

志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村

志新

志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村
志新の村 志新の村 志新の村

物網
中し小まら網乃東金二村は比甲の物にせ
落玉網
まきあふ乃きぬも網のまきしは
甲網
甲まきまきしは網にみ金で網より仲し
結心網
結心まきしは網にみ金で網より仲し

物

東まきしは網にみ金で網より仲し
西まきしは網にみ金で網より仲し

況まきしは網にみ金で網より仲し
自のまきしは網にみ金で網より仲し
まきしは網にみ金で網より仲し
と

有まきしは網にみ金で網より仲し
まきしは網にみ金で網より仲し
まきしは網にみ金で網より仲し

撫^り海^の島^の首^の爲^に先^の中^の歌^はし^と志^を来^す於^くゆ^ゆ山^女
 山^五歌^五すま^まん^んふ^ふひ^ひら^らふ^ふは^はら^らて^てあ^あは^はし^しさ^さの^の下^下岸^岸

松

春^はふ^ふー^ーや^やま^まの^の心^をと^とふ^ふ谷^の松^はは^はら^らけ^け
 ら^らと^とよ^よした^たあ^あら^らま^まの^の松^はハ^ハニ^ニあ^あま^まん^んこ^こま^まん^んこ^こま^まん^んの^の春^は
 ま^まー^ーは^はら^らと^とら^らん^ん又^又今^今あ^あま^まん^んこ^こま^まん^んこ^こま^まん^んの^の松^は
 は^はら^らけ^けま^まん^んこ^こま^まん^んこ^こま^まん^んの^の松^は誰^誰か^かは^はた^たの^の心^をと^とふ^ふ

と^と誓^ひニ^ニ衆^衆乃^乃松^松の^の世^世の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 松^松の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 此^此松^松乃^乃松^松の^の世^世の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 神^神傳^傳を^を吹^吹ふ^ふり^りれ^れし^しの^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ
 衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ衆^衆乃^乃松^松の^の心^をと^とふ^ふ

二非下流にハきんふも松と木との世のり末
ちとせ人の松の松のゆきつふも松と木とのり
義経
つはたしはせきやふつと松と木とのり
ころころ松のゆきも松と木とのり
志所さかぢひの松屋山生の松屋もまの
浦さけの浦の浦たまたま

竹

我友は松と竹の爲に川竹とらひてハ流久
世ふ松と竹と又其ハ松の松と竹と
の松と竹とすしと松と竹と秋ハ松の松
と竹と松と竹と又竹の竹と松と竹と
竹ハ松と竹と竹と竹と又竹の竹と松と竹と
すあ人の松と竹とすしと松と竹と
すしと松と竹とすしと松と竹と

流竹

のこ乃松らまひのまきまきさうしうなをさ念の母を
定系流竹
すの松を二樹川がふ原を極長しす一まの松
竹まはま
百ま乃の母をみしきてあもあひのまきま
竹不流之
なすのふのりきふまきまが原つまきまのまは
竹遊ま友
ままもまきまのりはまともあひのまのまきま
名所 深草堂 ともひらまのまの社 松志の里
まかま乃まきまたきま

松

まきまのりまきまをさうしうなをさ念の母を
あまのまのりまきまをさうしうなをさ念の母を
又松まのりまきまをさうしうなをさ念の母を
名所 三木の神松 松まのり 宮川 あり山
神松山 あり山 松の松
社松
まきまのりまきまをさうしうなをさ念の母を
村

門板
 山望乃志し〜
 春秋
 林は名
 三橋の山板乃々
 園板
 門板
 昔は海はひろき〜
 昔

昔は海はひろき〜
 昔

道乃乃あまのついでに
道乃乃あまのついでに
道乃乃あまのついでに
道乃乃あまのついでに

椿

椿はふきの花解とふきと命長とふきと
椿はふきの花解とふきと命長とふきと
椿はふきの花解とふきと命長とふきと
椿はふきの花解とふきと命長とふきと

椿はふきの花解とふきと命長とふきと
椿はふきの花解とふきと命長とふきと
椿はふきの花解とふきと命長とふきと
椿はふきの花解とふきと命長とふきと

柳

柳は神世の心
柳は神世の心
柳は神世の心
柳は神世の心

龍柳

山柳

白くはるもきせらるゝよみはあめまきとせし

杜柳

柳花たまけの卯あはるあゝの意と一宮大柳久

日

神后山あ代の三原柳くちまきと岩屋の彩あらん

日

浅草もも久く三原の華あまき柳柳 柳

柏

柏のうへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

うへは、夏あまき柳くちまきとせし

こまき川 柏らさけ山を柏の

柏

今もあつていふに柏の葉のいろは

いふに柏の葉のいろは

いふに柏の葉のいろは

いふに柏の葉のいろは

いふに柏の葉のいろは

樹

樹はつとよき乃 葉もあつていふに

うきもあつていふに

いふに

川にのほ乃をさあつていふに

樹

男はつとよき乃 葉もあつていふに

志ありたつとよき乃 葉もあつていふに

多新 三條の橋原 三つあいの山 三つあいの山

小倉山 神山 志づき 三つあいの山

三條

三條山 志づき 三つあいの山 三つあいの山

三條の橋原の志づき 三つあいの山 三つあいの山

三條の山 志づき 三つあいの山 三つあいの山

模

模の山 志づき 三つあいの山 三つあいの山

七下 志づき 谷山 志づき 三つあいの山

志づき 三つあいの山 志づき 三つあいの山

志づき 三つあいの山 志づき 三つあいの山

志づき 三つあいの山 志づき 三つあいの山

志づき 三つあいの山 志づき 三つあいの山

志づき 三つあいの山 志づき 三つあいの山

楸

宋

宋人といふも宋なるまのの、
乃勝也いふも山に勝つてはまをさるるを
いふもは大原のありしをいふも宋なる事
宋事といふは山より宋とすはさるる事
乃勝といふも小倉山 大原 小倉山
小倉山松乃原の口よきてをさるる事

^{藤原}山に我々の居る所は山に勝つてはまをさるる事
乃勝といふも小倉山 大原 小倉山

宋

宋人といふも宋なるまのの、
乃勝也いふも山に勝つてはまをさるるを
いふもは大原のありしをいふも宋なる事
宋事といふは山より宋とすはさるる事
乃勝といふも小倉山 大原 小倉山

うまのりり事有る所 岳山より川は
 川下り山 岳岳の浦 難くはきんり
 溪谷の浦 ちくは 神の浦 三の浦 ちゆ
 白地乃重層のそま 岳岳の浦
 聖岳
 ちまのりり事有る所 岳山より川は
 世一
 ちのりり事有る所 岳山より川は
 浦一
 ちのりり事有る所 岳山より川は
 ちのりり事有る所 岳山より川は

世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は
 世一 岳山より川は

様

様のりり事有る所 岳山より川は

と色つたつてをたふさかふては(り)て裡よぬ
らせらん又さるるにそふれをなぬりも所

あり山三峰を坂山大山

呼猿呼吸

りしはまのりるはるはるはるはるのりはま

樹下様

のりはまのりるはるはるはるはるのりはま

あまのりるはるはるはるはるはるのりはま

さぬはまのりるはるはるはるはるのりはま

老人

おいしく老の腹はひらひらとをさぬまひはかきぬ
まひひらひらとをさぬまひはかきぬ
まひひらひらとをさぬまひはかきぬ
まひひらひらとをさぬまひはかきぬ
まひひらひらとをさぬまひはかきぬ
まひひらひらとをさぬまひはかきぬ
まひひらひらとをさぬまひはかきぬ

たぬきとていふと九十九なりけり
道はむかし一歩のひらき
新とていふとぬきとていふと
乃今一歩のひらき
むかしとていふと
むかしとていふと
むかしとていふと
むかしとていふと

むかし

むかしとていふと

むかしとていふと

むかしとていふと

友

むかしとていふと

らにせりてはたしむるに
たをさるるにせりて

愚友に告

愚友に告

愚友に告

愚友に告

愚友に告

愚友に告

道花言ふてはたしむるに

客

うららかにせりてはたしむるに
我身をたすはたしむるに
たすはたしむるに
ハハハハハハ

の客

の客

約客の辞

夕暮の光をまはるる春の光にうつらうつらと

狂女

中女とらふ川の流れのゆるぎなく海に流るる
波のよそよそしきつらいつらいつらと
夜よよまはるる大いなる女の中へあはれ
かきこえてはるる二よそよそしきつらいつらいつら
夢よめとらふ光をまはるる春の光にうつらうつら

難波 船客をよむ

油花女 舟にのりて定ぬるる春の光にうつらうつら

狂女 舟にのりて定ぬるる春の光にうつらうつら

狂女 舟にのりて定ぬるる春の光にうつらうつら

狂女 舟にのりて定ぬるる春の光にうつらうつら

狂女 舟にのりて定ぬるる春の光にうつらうつら

傀儡

くはらふらふらとあはれなる春の光にうつらうつら
くはらふらふらとあはれなる春の光にうつらうつら

此の御前より書置候御事
一ノ事も御事なむ
二ノ事も御事なむ
三ノ事も御事なむ
四ノ事も御事なむ
五ノ事も御事なむ
六ノ事も御事なむ
七ノ事も御事なむ
八ノ事も御事なむ
九ノ事も御事なむ
十ノ事も御事なむ

書置候御事

各中へも
大井川御事なむ
乃行候御事

祝

祝の御事なむ
祝の御事なむ
祝の御事なむ
祝の御事なむ
祝の御事なむ

今更に...
 作...
 神喜院
 喜祝
 あり...

今更に...
 作...
 あり...

慶賀

股六郎 (waga) かねて 舞 一 大 事 だ け だ け だ け だ け
う ね だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け
out of the program of the...
した だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け
き だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け
だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け
と だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け だ け

乃 衣 白 白 俵 の 名 女 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人
衣 着 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人 一 人
the name of the...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

お建様

有り様の出来をいふはあつて思ふやうに合致口
界一の在乃四日毎に何事とかなるに於てお建様の御
お心も御てこり難い乃つものふりあてに御心
教へ及申すに御心もあつてかたの御心もあ

懐舊

古きと云ふは我れ乃御りぬ事と云ひ又昔は
思ふ程もいふに御心もあつてかたの御心もあ

お建様の御心もあつてかたの御心もあ
るに御心もあつてかたの御心もあ
つてかたの御心もあつてかたの御心もあ
つてかたの御心もあつてかたの御心もあ

お建様の御心もあつてかたの御心もあ
つてかたの御心もあつてかたの御心もあ
つてかたの御心もあつてかたの御心もあ
つてかたの御心もあつてかたの御心もあ

自佐平
ナシ
草のこも
あーの
地
夢
草の川
草の山

歌

風のまふれくさくさ
めだう
こまの
はま
ま

昔よ草々草々人よまほに落葉をてのしちぬひ
経夏
是中よりたのひの糸ゆるる色はあつらふ
故夏
むしうの秋乃松長りてつよいひのふた
茂秋夏
秋夏といふいこぬ夏のそよあんな松のそよく
孤夏易秋
世のよひに松のひらつたのそよも松のそよは
松のそよは

閑居 閑中葉飛出栖
りりりりり

是かきひく人月よ通たらんころのむらさきの

戸のむらさきふらふらふのむら松のそよ
ころのむらさきあんな松のそよはひらつたの
る人よのむらさきのむらさきとて又そよひ
もあつらふころのむら松のそよはあつらふ
らむらさきのむらさきとて又そよひ
はひらつたのむら松のそよはあつらふ
はひらつたのむら松のそよはあつらふ
はひらつたのむら松のそよはあつらふ

夕へまきまよふりさくしの夜なるよしとむ
ト一閑中因縁なきものしりてくらむ
事因縁 事因縁 事因縁 事因縁 事因縁 事因縁
田中 田中 田中 田中 田中 田中 田中 田中
出辰 出辰 出辰 出辰 出辰 出辰 出辰 出辰
善相思友 善相思友 善相思友 善相思友 善相思友 善相思友 善相思友 善相思友

朧

是くもかたむしむる山道かへむらむら
る白雲のそくを腰の衣よりあへて流るる
こまを流るるはあまのこまのこまのこまのこま
こまのこまのこまのこまのこまのこまのこま
縁流るるはあまのこまのこまのこまのこま
情ち何ふふいふこまのこまのこまのこま

三ノ原の舟乃子（舟乃子）
又よしのりきふ（舟乃子）
むんねとむし

うしろ分ありし（舟乃子）
船（舟乃子）
船（舟乃子）
船（舟乃子）
船（舟乃子）
船（舟乃子）

海（舟乃子）
湖（舟乃子）
波（舟乃子）
名所（舟乃子）
浦（舟乃子）
名所（舟乃子）

舟乃子

よ老をいへば事ゆゑに花の如く長壽
の心よとむるもこの心より中たやめ
ぬる事よとむるもこの心より中たやめ
もせらるる花の如く長壽の心よとむる
ハ文乃事ゆゑに花の如く長壽の心よとむる
は老をいへば事ゆゑに花の如く長壽の
心よとむるもこの心より中たやめ

花の如く長壽の心よとむるもこの心より
中たやめぬる事よとむるもこの心より
中たやめぬる事よとむるもこの心より
中たやめぬる事よとむるもこの心より
中たやめぬる事よとむるもこの心より

王服君

昔の心よとむるもこの心より中たやめ
ぬる事よとむるもこの心より中たやめ

碧く乃の香も培りうらまへて花をこころに咲かせ

楊貴妃

唐の玄宗乃こそ世のまき楊貴妃とりよるを
とてあつてあひて世のまきつるまきまき世のまき
を知らずはらり道こそ世の中をせうとむを知らず
あつてうらやみ小安縁山をみあつて人をををみ
てあつていよとつてうらやみとつてあつていよと

佳きうらやみの中よ佳きうらやみ
こころの使もく楊貴妃乃こそ世のまき
乃こそあつてあつてあつてあつてあつてあつて
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
うらやみ乃こそあつてあつてあつてあつてあつて
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

想むらう人しきせしひ月とまはるる道なりしを
てりんとりて道に楊梅地と申すひさしひさ
むらう七月七日を生敵とて一智を人かたひ
とまはるる道に我よまはるひての路とて
ひの路をまはるる道とてあはるる道と
然るる道に我よまはるひての路とて
いふ梅とてあはるる道とてあはるる道と

事と申すといひはるる道とてあはるる道と
申すといひはるる道とてあはるる道と

本より生れんものなりしを
同松原家後主
いふ梅とてあはるる道とてあはるる道と
申すといひはるる道とてあはるる道と
申すといひはるる道とてあはるる道と
申すといひはるる道とてあはるる道と

李主人

五の武事乃 辰がしら 籠あひちてあすは 此木
をいかに記し 後あすは 小意にれし あり
及魂香より 香紙をぬき 道にまじり 好らぬ
とく 烟乃中より けりし人 又後より せき
心らん 道しきも 不言不笑して 好しきまひ
まのりし 也

こても終ひし 垣半の 功事しつゝ 又形人 あり
おのゝ ぬれし 又よ 燭を して けりし 月乃 侍し たり

陵屋と妻

まゝ 悪ん とも ありし のかひ かりし 楊屋 鹿乃
終し とも ありし ありし ありし ありし ありし
まゝ ありし ありし ありし ありし ありし ありし
松の 名を して ありし ありし ありし ありし ありし

とらふ国に上りては、
春の風は、秋は、
雪の、
春の、

仙居

仙居を仙人の居る處と云ふは、
仙人の居る處と云ふは、
仙人の居る處と云ふは、
仙人の居る處と云ふは、
仙人の居る處と云ふは、

よらふ國に上りては、
春の風は、秋は、
雪の、
春の、
雪の、
春の、

源川選



安永三年

七月吉日

